

夏に向かう日々

7月になりました。12か月の4分の1が終了しました。私は本日県立学校長会議で出張、明日から2日間は盛岡で高等学校長会議東北大会で出張、そのあとの2日間は、山形で東北PTA大会で出張です。来週の月曜日は、東京で全国高等学校長協会会長会議です。学校にいる時間が一番心穏やかに過ごせるのに、こんな期間が続くと心身ともに疲弊してしまいます。この先には、夏の甲子園を目指す福島大会や各種目の全国大会が控えていますので、応援のために心充実させておくべきだと心しています。

それよりも何よりも、生徒達にとって、この夏の日々が、秋に実を結び、冬を忍耐強く越えて、春に大きな花を咲かせることができるための大事な大事な日々であると思います。生徒諸君も、教職員の皆さんも、磐城高校の結実と大きな花を咲かせることができる日を是非皆で形作っていきましょう。

ところで、実家の部落の草刈りを経験しました。広大な田園地帯を支えるのは張り巡らされている水路なのです。水路に沿って、覆いかぶさる雑草を刈り取っていく仕事に駆り出されました。水路は、いたるところに張り巡らされて、総延長で、5キロぐらいになるのでしょうか。ほんの100戸ぐらいの地域ですが、小川江筋から分かれて小川がいたるところに分かれていく中で、水田に水を入れることができる構造になっています。

私が担当したのは、100メートルぐらいの一つの水路ですが、草刈り機を使っても力が結構必要で、2時間ぐらいかかりました。水路の両側1メートルぐらいを借り進めます。これは受験勉強と同じだなと思いながら2時間刈り続けました。

端を刈って中央を刈る段取りが大切なのです。段取りに従って構造的に行わないと効率が下がるのです。途中で音を上げそうなところを我慢してひたすらリズムよく前に進むのです。自分で10メートル10分と決めて、半分終わったらきちんと休みを取ります。残りの50メートルに無我となる瞬間が来ます。ゾーンに入るのです。終わってみると達成感でうれしくなります。

草を刈り取るこのような日常の作業の経験や、部活動における努力の経験が、受験に生きるのは、こんな段取りと達成感を経験するからだと思います。

夏に向かう日々の中で、毎日の学習に飽きてしまったときや、暑さに負けてしまいそうなときには、こんなことを少し考えてみてくださいね。

学習は、その総量が大切です。しかし、学習の総量をこなすには、そう時間が必要です。最小限の努力からは、最小限の成果しか達成しません。最大限の努力を行っても、最大限の成果が得られるとは限りません。それでも、最大限の努力を惜しまず、ノルマをこなしていくことこそ、未来をこじ開ける力となりうると考えます。

未来はこじ開けるもの、合格は勝ち取るものです。

